



「化学薬品は使わず、体と環境にやさしいタオルにこだわっています」と宮内さん

# こだわりの泉州タオル 守り続けたい

大阪タオル工業組合

宮内 純さん

日用品からギフト品まで多種多様。南海本線・泉佐野駅前の「泉州タオル館」で展示



## 素材と製法に こだわった 新商品を開発

「日本でまだタオルを作っていたんですか?」「探していたのでやっと見つかりました」  
東京で展示会を開いたところ、全国各地から思わぬ問い合わせや注文がありました。  
125年の歴史をもつ大阪の「泉州タオル」。現在、日本国内で販売されているタオルの8割が外国産で、残り2割のシェアを、四国と泉州で分け合っています。

「価格競争だけでは外国産に對抗できなくなっています。素材と製法にこだわった新商品を開発して、泉州タオルのよさをアピールしていきたい」  
地元の業者でつくる「大阪タオル工業組合」で、製品の紹介や販売を担当する宮内純さん(44)は語ります。

## 「後晒し」の製法で 吸水性は抜群

泉州タオルの特徴は、タオルを織り上げた後で、精練・漂白といった「さらし」を行う「後晒し」(あとざらし)製法をとっていること。タオルに使う綿糸は、織りやすくするために天然糊で強さを増してすべりをよ

くしますが、織り上がったままのタオル地は水をはじき、吸水性が悪くなります。「後晒し」製法では、織った後でさらし工程が入るので、糊や不純物がきれいに洗い流され、吸水性のよいタオルになります。サッと一拭きするだけで気持ちよく水を吸うので、わざわざ「後晒し」製法のタオルを注文する人も多いそうです。

## 後継者難で業者が減少 「なんとか残したい」

泉佐野に生まれ育った宮内さん。一時は他の町で働いていましたが「やっぱり地元で働きたい」と、11年前から「大阪タオル工業組合」で勤務しています。「経営難や後継者不足で業者がどんどん減ってしまっ...。泉州タオルは零細で一匹狼の業者が多いんです」

最高時(1983年)には700社近くが加入していた工業組合も、現在は100社にまで減少しています。

「自治体からも支援は頂いていますが、入札では産地指定、国産指定をしたり、業者が不当な値段で競争できるように配慮はしてほしい。地元産の泉州タオルを、次の世代に何とか残したいです」  
再生にかける思いを、宮内さんは熱く語ってくれました。



# NO NUCLEAR WEAPON 核兵器の廃絶へ世界がひとつになった!

参加した「NPT再検討会議」の平和行進に

## NPT再検討会議一大阪自治労連代表団が、平和の願いを届ける

おおさか自治体の仲間

発行：大阪自治労連(大阪自治体労働組合総連合)

2010年5月15日 No.256

〒530-0041 大阪市北区天神橋1-13-15大阪タワー  
全館4F ☎06-6354-7201 FAX06-6354-7206  
E-mail:mado@osaka-jichiroren.jp  
URL:http://www.osaka-jichiroren.jp

発行人/前田 仁美 編集人/久保 貴裕  
1990年9月12日第3種郵便物認可  
毎月15日発行(1部10円) 組合員の購読料は組合費に含まれています。

5月1日からニューヨークで開催された「NPT再検討会議」に大阪自治労連から26人の代表団が参加。被爆国の自治体労働組合として「核兵器廃絶を求め署名」を届け、世界各国の仲間とつよに集会、デモ行進で元気にアピールしました。(2頁に続く)